

春号

2016
VOL.02

Contents [目次]

新院長あいさつ	2P
新任医師紹介	
祝満床報告	3P
大新年会	
看護部紹介	4~5P
リハビリテーション科紹介	6P
院内教育	7P
医療連携室・HP紹介・アクセス	8P

四季
だより

ご
さん
だ





松谷 雅生 新院長 あいさつ

私は本年4月1日より当院院長に就任いたしました。脳神経外科医としての今までの経験を生かし、当院を皆様の満足していただける回復期リハビリテーション病院として発展させるよう努力いたします。よろしくお願い申し上げます。

当院は昨年10月に開院し、前任の山田達夫院長のご指導によりこの間入院された多くの方々をご自宅や職場にお返しすることができました。

当院の一つの特徴は地の利、JR山手線五反田駅から徒歩8分の至近距離にあることです。皆様のリハビリテーション病院のイメージは「温泉」ではないでしょうか。日本人なら誰もが、温泉は万病を癒す神秘的な泉との古くからの温泉信仰を心の片隅に抱かれています。戦国時代から多くの戦士の戦傷を癒やしてきた実績があります。日本に近代医学をもたらしたドイツの医師ベルツ博士の「草津温泉の医学的有効性」に関する論文が数編あります。昭和37年には日本温泉気候物理医学会が発足し、温泉療法医認定制度を定めています。大自然の懐に抱かれ、温泉を利用したリハビリテーションは想像するだけで効果抜群の予感がします。しかし、東京で生活をされていた方々にとって、美しい星空と静寂な森林はぜいたくな悩みであつても都会の喧噪への郷愁をかきたてます。それを癒やして下さるご家族やご友人の頻回のお見舞いは困難であります。当院の屋上庭園から眺めるビル群、24時間絶えない病院前の車列と騒音、ご家族・ご友人の頻回な訪れ、これこそが東京で暮らす方々が病から回復し、ご家庭や「仕事場」と呼ぶ戦場への復帰のなによりのモチベーションになっています。

今後も皆様に信頼される病院として、職員一同心を込めて日々の仕事に邁進いたします。よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人 巨樹の会
五反田リハビリテーション病院

院長 松谷 雅生
(まつたに まさお)

脳神経外科医
昭和17年生まれ 兵庫県出身
昭和43年:東京大学医学部医学科卒業
平成2年:東京大学医学部助教授
平成6年:埼玉医科大学教授
平成19年:埼玉医科大学
国際医療センター病院長
平成25年:美心会黒沢病院脳神経外科、
脳卒中センター顧問
平成28年:五反田リハビリテーション
病院 院長就任

新任医師紹介



院長補佐
中村 利孝
(なかむら としたか)

- 整形外科・関節外科、骨粗鬆症 専門医
- 昭和48年 東京大学医学部卒
- 東大医学部整形外科講師
- 産業医科大学整形外科教授
- 産業医科大学副学長・病院長
- 国立国際医療研究センター病院長

これまで、主に関節の病気や骨折の治療と予防を中心とした医療、教育、病院管理に携わってきました。医療チームのメンバーが仲良く互いに励まし合い、患者の皆様が安心して回復力を発揮していただける医療の実践に努めます。宜しくお願いします。



医師
清川 忠男
(きよかわ ただお)

- 昭和41年 東京大学医学部卒
- 消化器外科 (墨東病院、三井記念病院)
- 呼吸器外科 (自治医科大学講師、
パリ大付属FOCH病院留学)
- 日本医師会認定産業医

外科医としてスタートしましたが50歳を過ぎてからは予防医療や老人医療に携わってまいりました。この経験を生かしてこれからは回復期医療に取り組みたいと考えております。



医師
桂 隆志
(かつら たかし)

- 平成元年 昭和大学医学部卒業
- 平成14年 昭和大学医学部内科講師
- 平成18年 昭和大学医学部内科助教授
(現准教授)
- 平成26年 あそか会あそか病院内科

患者様の一日も早い回復をお手伝いするとともに、患者様並びに御家族との良好な信頼関係構築に努める所存です。

お陰様で満床になりました!



五反田リハビリテーション病院 平成27年12月1日

大新年会 in 目黒雅叙園



平成28年1月13日(水)、目黒雅叙園にて、連携先の医療関係者の方々、国会・都議会議員、地域の皆様、グループの関係者をお招きして、合計約470名の参加による開院後初の新年会を開催しました。

冒頭で東京高輪病院の木村院長や昭和大学神経内科の小野教授に御挨拶を頂戴しました。ありがとうございました。

各病棟の余興発表は、短い準備期間にもかかわらず会場は大変な盛り上がりを見せ、スタッフ間の団結にも繋がったことと思います。また、大抽選会では蒲池会長自ら賞品のお米を当選者に渡されるサプライズ場面もありました。

今後も職員一丸となり地域の皆様に安全で良質なリハビリテーション医療を提供できるようより一層の努力をしておりますので、御支援と御協力を賜りますようお願いいたします。



看護部紹介

統括看護部長のあいさつ



統括看護部長
和田 玲
(わだ れい)

「手には技術を 頭には知識 患者様には愛を」の病院理念に賛同し、平成28年4月より赴任しましたのでよろしくお願いいたします。

患者様を24時間365日ケアで、この理念を具現化し、結果に結びつけていくことが必要と考えます。看護実践のアウトカムを可視化し、患者様・ご家族の方々をはじめ、職員の満足度を上げられていければと考えています。医療行政改革が進む中、当院に求められている役割は、地域包括ケアシステムの中で地域と急性期医療を繋ぐ中核的な存在となることです。そのために、更なるチーム医療の推進と、質の高い回復期リハビリテーションを行うことが必要です。地域で暮らしたいと願う「患者様の気持ち」を第一に考え、「寝たきり」「ゼロ」と「在宅復帰」を目指し多職種間連携の基、温かい心のこもった質の高い看護を提供していくために皆様と共に頑張りたいと思います。

看護部理念

確かな知識と技術、豊かな感性

基本方針

1. 「患者様の気持ち」を忘れないようにすること。
2. 患者様やそのご家族一人一人を大切に、温かい心のこもった質の高い看護を提供すること。
3. 患者様にとって必要な医療サービスが受けられるよう、他職種との要になること。

看護部長のあいさつ



看護部長
塘地 正美
(とうち まさみ)

看護部では、患者様ならびにご家族様一人一人の笑顔を中心に、心のこもった看護サービスを提供し、「寝たきり」「ゼロ」、在宅復帰を目標にリハビリテーション科と一体になり、病棟での日常生活に合わせ「生活リハビリテーション」を看護の現場で行っています。入院当初より、患者様・ご家族様と話し合いをしながら、必要な日常生活動作の獲得に向け、リハビリテーションが安全に実施され、その効果が100%発揮されるよう心身の状態を良好に整えるための看護を行います。患者様が回復され、「この病院に入院してよかった」と笑顔でご自宅に戻られるようサポートいたします。

クラークについて

看護部長室クラーク

看護部長室クラークとしての仕事で、五反田リハビリテーション病院独自のものといえば、特別室サービスをさせて頂いていることです。

毎日の新聞・お茶・お水の配達から、毎月あるイベントごと(バレンタイン、節分等...)にカードを作成してお渡ししたり、入院中に誕生日をお迎えになる患者様にバースデーカードを作成し、お部屋でお祝いをしています。開院後3名の患者様にお祝いさせていただきましたが、皆様大変喜んで頂けました。今後も、より豊かな入院生活を送って頂くためにクラークとして出来ることを考え、実践していきたいと思っております。

病棟クラークとしての仕事

医師・看護師・看護補助者・リハビリテーションのスタッフが患者様の診療・看護・リハビリテーションに徹することが出来る様事務作業を担当しています。病棟内の業務が円滑に進むよう常に周りの状況を把握するよう心がけています。患者様の少しの変化に気付き、積極的にお声掛けをするようになってから顔を覚えて頂き、患者様がお困りの時には最初にクラークに聞いて頂くことが多くなりました。日常の中で患者様に笑顔でご挨拶をすることにより、よりよい関係づくりに役立っていると思っております。



3・4階 病棟

3・4階病棟は『共成』をスローガンに患者様の日々の看護を行っています。

日々の看護を行うなかで、私達は患者様や御家族から学ぶことがたくさんあります。その時の学びや思いを、スタッフ間で共有し、共に成長することで病棟の看護力アップに繋げていきたいという思いが『共成』にはこめられています。

お正月には書初めや福笑いを行い、クリスマス会や節分など季節の行事を行いました。患者様からも「楽しかった」「こんなに笑ったのは久しぶり」などの言葉を頂きました。これからも患者様や御家族の笑顔がたくさん見られるように日々の看護に携わっていききたいと思います。

5・6階 病棟

突然の病気から当院へこられ、患者様の「元の生活に戻りたい!」という気持ちはとても強いです。そんな中、病棟内で苦楽を共にされる友人を見つけられる方はとても多いです。ただ残念ながら退院時期は人によってマチマチです。ですので今まで仲の良かった方を見送らねばならない、といった場面が非常に多いのです。お別れのエレベーター前では、皆さん目を潤ませながら職員と共に退院される方をお見送ります。そのような場面を見ますと「私達も頑張って皆さんを早く退院させてあげたい!」と身が引き締まる思いです。皆さんが早期退院を実現できるよう看護・介護・リハビリテーションスタッフ一丸となってサポートしていきたいと思っております。

7・8階 病棟

7・8階病棟は、バイオリンから優しい音を奏でるリハビリテーション専門医の石川医師を中心に患者様の機能の回復、在宅復帰をめざして日々頑張っています。

病棟での一日の始まりは、「笑顔のあいさつ」、患者様、スタッフみな素敵な笑顔が、いっぱいです。毎日のレクリエーションの時間には、患者様・看護師・看護補助者の笑声が病棟に響いています。また、看護面では、固定チーム制を取り入れ、プライマリーナースが、家族・他職種との連携を図り、入院～退院まで安心して入院生活を送られるように患者様をサポートしています。

9・10階 病棟

9・10階は、池崎医師を中心にリハビリテーションを念頭に置いた生活全般を支えております。

デイルームでは午前・午後にレクリエーションの時間があり、リハビリテーションの介入がない患者様に気分転換を含めた活動をしています。デイルームには、リハビリテーション用のトレーニング機器が設置され、セラピストの指導の下、患者様が自主リハビリに励まれています。

9・10階は、最上階でもあるので、デイルームからの都会のオフィスビル群の眺望は素晴らしいです。それにも、増してスタッフ間のチームワークが自慢です。

リハビリテーション科紹介



PT 理学療法士 **129名** **OT** 作業療法士 **47名** **ST** 言語聴覚士 **14名** **総数** **190名**

所属長のあいさつ



波多野 崇
(はだの たかし)

当院では、機能回復を図るだけでなく、退院後もその方らしい生活を送って頂けるよう365日途切れる事のないリハビリテーションを提供させて頂いております。1日の中では、日中の訓練以外にもお身体の状態に応じて、早朝や夕食後におけるリハビリテーションの提供もさせて頂いております。

リハビリテーションは、個別訓練だけではなく、他職種と連携を図り、在宅生活を見据えて、入院中から起きて生活する習慣作りのお手伝いをさせて頂きます。

機能訓練や日常生活動作の訓練に加え、起きて生活する習慣作りの獲得をして頂くことで、より円滑に在宅・社会復帰が可能となられるよう全力でサポートさせて頂きます。

設備の紹介

デジタルミラー



画面(ミラー)に映るお手本映像と自分の動きを比較しながらトレーニングが可能です。重心訓練を中心とするトレーニングや測定メニューなど、患者様各々の状態に応じた訓練プログラムの作成が可能です。

オールインワン



立位不安定な方でも安全かつ快適に、早期からの歩行訓練が可能な歩行器です。

シミュレーションルーム



在宅生活を想定した空間となっています。入院中から在宅生活を見据えた模擬動作を繰り返すことで、退院後の円滑な生活に繋がっていきます。

ドライビングシミュレーター



自動車運転の再開に向けて、評価・訓練をサポートする体験システムです。教習所で使用されている危険予測体験を元に難易度を設定したコースや様々な運転環境を再現したコース設定が可能です。

※あくまでも、評価・訓練をサポートする体験システムです。

院内教育

昭和大学 小野教授 特別講演会



平成27年12月3日、昭和大学神経内科の小野賢二郎教授によるパーキンソン病についての特別講演会を開催しました。パーキンソン病は、脳内のドーパミン不足とアセチルコリンの相対的効果を病態とし、振戦、固縮、無動、姿勢反射障害といった錐体外路系徴候を示す進行性の疾患です。薬物療法は主に対症療法として用いられ、抗コリン作用性薬あるいはドーパミン系の賦活薬を用います。病理学的特徴であるレビー小体の主要構成成分は、 α -シヌクレイン(α S)の凝集体であり、小野教授の研究により、フェノール化合物が α S凝集を抑制することが明らかになりました。

アンコール小児病院 17周年記念訪問研修

五反田リハビリテーション病院 事務次長 安部 一英



1月29日から2月2日までの5日間、カンボジアのシェムリアップ市へアンコール小児病院17周年記念訪問研修に行き参りました。アンコール小児病院は、毎日の外来患者約600名をすべて無料で診察、しかも高度な医療を提供しています。カンボジアの方々の収入は月わずか4,000円程。カンボジア国民にとって、アンコール小児病院はとてありがたい存在となっています。その医療を支えているのは私達からの寄付金です。

なお、研修の合間にはアンコールワットなどの遺跡群を巡る観光もありました。また、滞在3日目には小児病院のスタッフの方々から食事会に招待され、大変楽しい時間を過ごすことができました。今回の研修は、私の人生にとって貴重な5日間となりました。このような素晴らしい時間を頂いたこと、本当に感謝いたします。ありがとうございました。

BLS 講習会



毎月2回全職員を対象にBLS講習会を行っています。BLSとは(BASIC LIFE SUPPORT)の略で一次救命処置のことです。11月よりBLS人形、練習用AED(自動体外式除細動器)を用いて、職員対象院内BLS講習会をスタートしました。医師からの講義の後、救急の経験があるスタッフをインストラクターとし、症例に応じた実技を行います。平成27年度は約90名の受講がありました。急変はいつ、どこで起こるか分かりません。冷静に対応できるように、今後も継続していきたいと思っております。

連携病院認定看護師 特別講演会



NTT東日本関東病院と荏原病院の認定看護師の講師をお招きして、全職員を対象に「皮膚・排泄ケア」、「摂食嚥下障害看護」、「脳卒中患者のリハビリテーション看護」等、合計4回の講演会を行いました。

写真はNTT東日本関東病院認定看護師の縣智香子様です。インフルエンザ・ノロウイルスの流行期に入る時期でもあり、その対策も含めた感染対策について、非常に分かりやすく翌日から実践できる内容でした。講師の皆様ありがとうございました。

医療連携室

私たちは、患者様が安心して入院し、満足して退院していただけるよう、常に丁寧な対応を心がけています。

入院までの流れ

現在ご入院中の病院の主治医またはソーシャルワーカーから、当院の医療連携室までご連絡いただき、FAXにて診療情報提供書・ADL表をお送りいただくようお願い致します。

診療情報提供書が届きましたら、判定会議にて受け入れの検討をさせていただきます。

現在ご入院中の病院に判定会議の結果を報告し、受け入れ可能な場合は、ご家族様に連絡、入院前見学・面談の日程を調整させていただきます。

見学・面談

※遠方の方は電話にてご案内もいたします。

お部屋の準備ができましたら、現在ご入院中の病院へご連絡させていただきます。



医療相談窓口（1階受付）

医療連携室の受付時間 9:00～16:30（月～土曜日）

担当者 藤・小林・高村・荒木・三上・杉山・村上・中俣・岸野・松本・宮崎

☎ 03-3779-8826（直通）

ホームページのご案内

病院の詳細な内容は、ホームページでご覧いただけます。ぜひご参照くださいませ。グループ病院ホームページにもリンクできます。

五反田リハビリテーション病院

<http://www.gotanda-reha.com/>



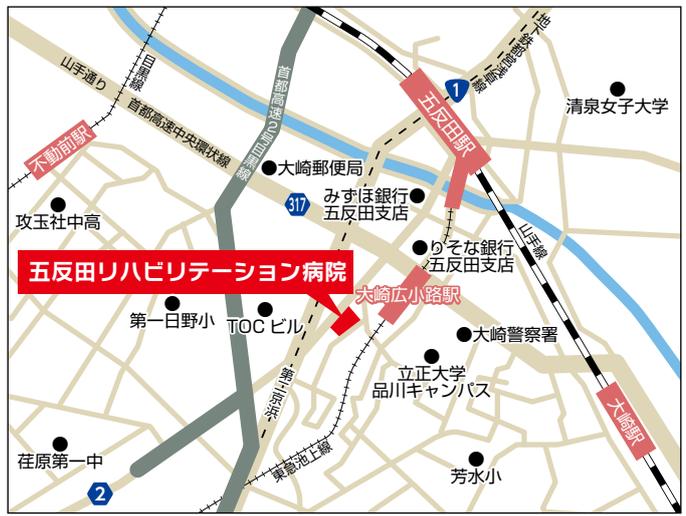
四季だより
ごたんだ

春号
2016
VOL.02

平成28年4月

一般社団法人巨樹の会
五反田リハビリテーション病院
広報委員会

〒141-0031 東京都品川区西五反田8丁目8-20
TEL 03-3779-8820 / FAX 03-3779-8823



- 五反田駅（JR山手線、都営地下鉄浅草線、東急池上線）徒歩8分
- 大崎広小路駅（東急池上線）徒歩3分
- 大崎駅（JR山手線、埼京線、りんかい線）徒歩12分